

第5回 持続可能性有識者委員会 議事要旨

I 開催概要

1 日時

2025年9月9日（火）10:00～12:00

2 場所

公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会 7階大会議室
（横浜市中区住吉町1-13 松村ビル本館）
（Web会議システムを併用）

3 出席者（氏名 五十音順）

ジャーナリスト・環境カウンセラー 崎田 裕子 委員長
損害保険ジャパン株式会社 カルチャー変革推進部 シニア アドバイザー、放送大学 客員教授 関 正雄 委員
国立大学法人 東京大学大学院 農学生命科学研究科 教授 橋本 禅 委員
一般財団法人CSO ネットワーク代表理事 長谷川 雅子 委員

4 定足数

総委員数 5名

出席委員数 4名

※一般社団法人バーチュデザイン代表理事 吉高まり委員は欠席のため、事前にご意見収集し、委員会にて共有

5 配布資料

次第

委員名簿

席次表

出席者名簿

資料1 過年度の委員会におけるご意見のレビューと対応等の方向性

資料2 プレイベント・サステナビリティレポートの作成

資料3 持続可能性に配慮した調達コードの運用

資料4 ESMS(イベントサステナビリティマネジメントシステム)の構築・ISO20121 認証取得に向けた対応状況

Ⅱ 議 事

※略語について

協会：公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会

1 過年度の委員会におけるご意見のレビューと対応等の方向性について

- スマホアプリの開発の関係では、通信インフラの強化が必要。ダイバーシティ・インクルージョンの関係で災害発生時の外国人等対応等含め、周辺自治体との連携が必要。
- 先日大阪・関西万博にて会場に直結する地下鉄が電気系統トラブルにより運転を見合わせ、帰宅困難者が発生する事態があった。GREEN×EXPO では、インフラについて課題がありそうか。
 - 協会：GREEN×EXPO の場合、電車のみでのアクセスは難しく、4つの路線それぞれシャトルバスが走る予定。大阪・関西万博のように1つの路線が止まっても交通インフラが遮断される可能性は低い。交通インフラ以外に、落雷・地震等自然災害にも備え、防災における基本計画や具体的な実施計画も策定予定。通信インフラについても通信事業者との連携を推進中。
- 上記帰宅困難者の発生事案に関し、多くの方が会場内での待機となった。備蓄が140万人分程度あったが、配給開始時刻は夜中2時頃と報道されている。非常時の対応について、素早い判断ができる運営体制の構築も重要。
- サステナビリティに関する企業からの関心は既に高く、GREEN×EXPO 開催年である2027年はさらに高まっていると想定。企業関連団体とは既に連携しているが、引き続き推進すべき。
- 企業との連携に加えて、自然関連では経団連自然保護協議会等との連携が挙げられる。
- 発信においては、影響力のある人・組織の協力を得て、まだGREEN×EXPO を認知していない層（例：海外からの来場者）にリーチすることが重要。
 - 協会：現状、サステナビリティに関して個別企業との十分なコミュニケーションにまで至っていない。今後は企業の協賛を推進し、GREEN×EXPO としての価値づけをどうするか検討することが重要。
 - 協会：花き園芸だけではないというメッセージと、GREEN×EXPO を盛り上げるコンセプトを対外発信し、協賛含め協力者を増やすタイミングであると認識。そのため、小中学校等との連携も重要。国土交通省や商工会議所でのイベントでも発信機会を獲得しており、それらの機会を通してGREEN×EXPO におけるGREENの意味するところをしっかりと出していきたい。また、国連大学（UNU）とも議論する機会等創出しており、国際イベントへの参加等を積極的に作り、働きかけ、相乗効果を狙っていきたい。
- 大阪・関西万博ではESGプログラムの一環として「サステナドーム（CUCO クーコ®-SUICOM スイコムドーム）」を設置し、サステナビリティについて発信しながら子どもたちが集える空間を設計。
- GREEN×EXPO は花き業界のサステナビリティを高める良い機会になる。
 - 協会：フラワーロスについて、「資源循環の考え方」に沿って検討を進めており、来場者にまだ使える花苗を配布することや公共施設に樹木などを譲渡する取組を実施予定。堆肥化等による再資源化も検討している。
- 運営面でも現実社会の半歩先を行くビジネスの売り方、買い方を大阪・関西万博は実施。サーキュラーエコノミーの観点では、発生抑制とリユースを強調して実施すると良い。

2 プレイベント・サステナビリティレポートの作成について

(1) 持続可能な開発目標 (SDGs) への貢献

- プレイベント・サステナビリティレポートにて SDGs の進捗状況を反映する際、Beyond SDGs の視点も踏まえ検討しても良い。
- 2年後の国際・政治状況は楽観視できない中、ポスト SDGs への提言として、日本政府が世界に発信してきた政策的なメッセージである「人間の安全保障」を改めて発信することも一案。
- SDGs は包括的あり、GREEN×EXPO で議論しているカーボンニュートラル、ネイチャーポジティブ、サーキュラーエコノミー等も SDGs に含まれる。GREEN×EXPO が既にポスト SDGs を意識した議論をしているとも言えるため、ポスト SDGs の課題、論点を整理し、GREEN×EXPO の取組との整合をアピールすることが良いのでは。例えば、アクセシビリティの取組は貧困・不平等等のゴール、教育の取組は教育、パートナーシップのゴールと関連がある。既に実施している又は計画予定の取組で見せ方を工夫すると良い。
 - 協会：ポスト SDGs は意識する必要がある。今後は、日本におけるこれまでの流れを作ってきた愛・地球博（愛知万博）、国際花と緑の博覧会、大阪・関西万博から何をどう引き継ぐかが論点となる。今後「グリーンのちから宣言」プロジェクト（仮称）の中でも検討したい。
- これまで日本社会では well-being のキーワードをあまり重要視してきていないが、次の時代をつくるにはそれを考えていく必要がある。ポスト SDGs を体現する機会として強気に打ち出すことも一案。
 - 協会：GREEN×EXPO はテーマが明確。テーマの「幸せ」はポスト SDGs や well-being と関連し、「風景」は自然との共生やランドスケープを考える（例：里山）等、これまで日本がやってきた SDGs への貢献や well-being と結びつけやすいと思う。

(2) 持続可能性優先事項：人権・D&I・アクセシビリティ

- 大阪・関西万博では高齢の方の参加を多く見かけた。会場内の移動（電動パーソナルモビリティの使い勝手など）について、参加した高齢者等の意見も聞いた方が良い。
- アクセシビリティに関しては、主に身体障がいのある方々のアクセシビリティが挙げられているが、広義のアクセシビリティについて議論すべき。例えば、価格面や、暑い時期の開催における休める場所の有無等。
 - 協会：本日の指摘や事例等も踏まえて検討する。
 - 協会：障がい者に限らず、気象、交通をどう緩和回避するかについて協会全体で議論。専門家意見踏まえ検討している。
- イベント全体として、国連ビジネスと人権に関する指導原則（UNGP）（以下、「指導原則」）に則る旨の記載がない点は疑問が残る。指導原則は、企業だけでなく国全体に影響するものであり、国別行動計画の日本計画において、政府の役割やリーダーシップがハイライトされる。プレイベント・サステナビリティレポートでは、大方針として位置づけ、冒頭及び人権関連の部分に記載することを期待。現状、「人権・D&I・アクセシビリティの記載コンテンツ案」ではアクセシビリティについて詳細記載されており、そこに偏っているという見方をされる懸念がある。また、持続可能性に配慮した調達コード（以下、「調達コード」）の通報件数が0件についてどう評価すべきかの議論もある。人権を重視

できていないという見方をされないよう工夫が必要。

- 国連の指導原則に則するという基本を打ち出すについてはいかがか。
 - 協会：重要なお指摘と認識。日本の協会組織として、GREEN×EXPO は、経済産業省のガイドラインに最低限対応する。他方、大阪・関西万博では、相当数の人権通報を受領している中、GREEN×EXPO ではどう対応するか再考必要。プレイベント・サステナビリティレポートでは、すでに打ち出している人権尊重の姿勢を改めて記載する。
 - 大阪・関西万博で、人権や調達コードの対応窓口に問い合わせが入ったのは開催直前から開催中。GREEN×EXPO 参加者もこれから具体的に準備をすすめる段階で問い合わせが入るものとして、問い合わせがゼロであることは問題ではないと史料。
- イベント運営に関わる全ての人の人権尊重が大前提。その中にアクセシビリティや調達コードがある。大阪・関西万博で通報件数が一定数あったというのは仕組みが回っている良い事例。バリューチェーン・運営全体の中で人権をどう尊重するかが重要。SDGs も究極は人権尊重のため、人権に関する方針や重要性の認識、具体アクションを検討すると良い。
 - 協会：GREEN×EXPO における人権の位置づけについて協会内で議論していく

（３）持続可能性優先事項：環境・生態系

- 生態系・環境の「グリーンのちから宣言」プロジェクト（仮称）の名称について、日本語ではニュアンスが伝わるが英語で伝わるか疑問が残る。日英対応関係を意識した宣言名とする方が良い。また、プロジェクト内容で「生態系機能」とあるが、生態系機能は光合成や有機物の分解等の生態学的な機能を指す概念。このうち特に人間が受ける恩恵を「生態系サービス」と呼ぶ。その意味では、宣言の生態系機能は「生態系サービス」に修正した方が適切。宣言の四本柱については、記載内容の重複等も見受けられるため整理が必要。取組内容や表現については、生物多様性国家戦略 2023-2030 等との整合性があると良い。
 - 協会：今後、大学研究機関、民間、自然保護協議会、ユース等の意見を踏まえて更新。J-GBF（2030 生物多様性枠組み実現日本会議）によるネイチャーポジティブ宣言やネイチャーポジティブ経済移行戦略を軸に、文言は齟齬なく、市民の方もわかりやすく更新し、事例や叡智も含める想定。
- 大阪・関西万博は、マイボトル持参を呼びかけ、給水機を 100 台設置しているように、来場者にも見える努力が重要。また、来場者の日常生活の中で循環経済の観点は気づきが多いため、個別の資源循環対策の具体例の中にプラスチック削減対策などのキーワードを追加する等強調が必要。

（４）その他

- それぞれのステークホルダーに対してどの計画が対応するかを示すマトリクスがあれば位置づけが明確。
- 「産官学連携・市民」の表現は、硬い印象があり、区切るものでもない。「マルチステークホルダー」のように柔らかな表現、かつ、より包括的な表現の方が良い。
- 市民参画は市民だけでなく植物園等も含まれる。GREEN×EXPO に向けてマルチステークホルダーとのパートナーシップで作り上げ、次の時代につなげていく、その取組を発信することで、社会にレガシーを残すストーリーを表現すると良い。
 - 協会：市民参画は企画調整部が推進しており、種をまいている段階のため、すぐの実施ではな

い予定。マルチステークホルダーについても記載等について検討する。

- 現在どのように GREEN×EXPO を作っているかを積極的に情報発信に活用すべき。例えば、小中学校の学びのリソースや、Youtube での広報等。
- 大阪・関西万博は脱炭素に力を入れているが、実際には各国パビリオンの展示よりサステナビリティと言えはサーキュラーのイメージを持った。レガシーにはこのような参加者のイメージも含まれると思うため、プレイベントから一貫した発信で参加者の期待値を盛り上げるべき。

3 持続可能性に配慮した調達コードの運用について【報告】

- 本調達コードについて、通報しやすい形を検討すると良い。

4 ESMS(イベントサステナビリティマネジメントシステム)の構築・ISO20121 認証取得に向けた対応状況【報告】

- ISO20121 取得により、持続可能なイベント運営が進むだけでなく、発信する際の具体性が向上するため、取組実施及び ISO20121 取得を推進すべき。

以上